

**製品名: ST5 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab18324**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	126kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ST5
別名	ST5; DENND2B; HTS1; Suppression of tumorigenicity 5 protein; DENN domain-containing protein 2B; HeLa tumor suppression 1
遺伝子 ID	6764.0
SwissProt ID	P78524
免疫原	抗血清はヒト ST5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 411-460

**背景**

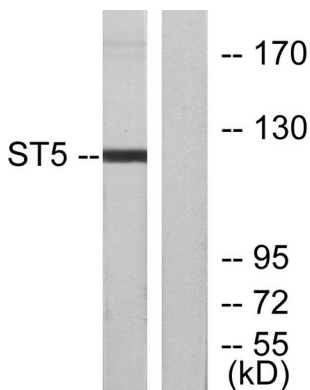
この遺伝子は、ヌードマウスの HeLa 細胞の腫瘍形成を抑制する能力により同定されました。この遺伝子によってコードされるタンパ

ク質には、小さな GTP 結合タンパク質の Rab 3 ファミリーと相同性のある C 末端領域が含まれています。このタンパク質は c-Abl キナーゼの SH3 ドメインに優先的に結合し、MAPK1/ERK2 キナーゼの調節因子として機能し、細胞内の腫瘍形成表現型を低下させる能力に寄与している可能性があります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 3 つの選択的スプライシング転写バリエーションが同定されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能：細胞骨格の構成と腫瘍形成に関与している可能性があります。アイソフォーム 1 は、MAPK1/ERK2 の活性化につながるシグナル伝達経路に関与しているようです。アイソフォーム 3 は、ABL1 によって刺激された ERK2 の活性化を阻害する可能性があります。アイソフォーム 3 は細胞形態および細胞増殖を変化させる可能性があります。類似性：dDENN ドメインを 1 つ含む。類似性：DENN ドメインを 1 つ含む。類似性：uDENN ドメインを 1 つ含む。サブユニット：アイソフォーム 1 は ABL1 の SH3 ドメインと相互作用する。組織特異性：末梢血リンパ球を除いて広く発現している。アイソフォーム 1 は、いくつかの上皮細胞および線維芽細胞（腫瘍形成性を含む）で発現しているが、リンパ球細胞株（タンパク質レベル）では発現していない。アイソフォーム 3 は、初代培養細胞または弱い腫瘍形成性で発現しているが、腫瘍形成性細胞株では発現していない（タンパク質レベル）。

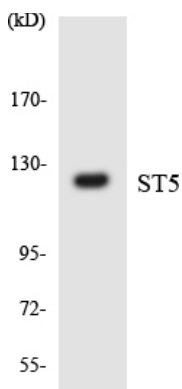
## 研究分野

シグナル伝達; タンパク質リン酸化; Ser/Thr キナーゼ; MAPK 経路; がん; 腫瘍タンパク質/抑制因子; 腫瘍抑制因子

## 画像データ



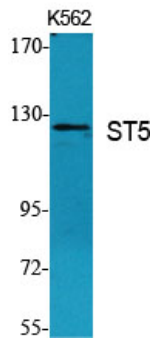
ST5 抗体を用いた COLO205 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



ST5 抗体を使用した COLO205 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。

(kD)

ST5 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



ST5 ポリクローナル抗体を用いた COLO205 細胞のウェスタンブロット解析

